

観！ボジアだより



かぼちゃん

洪水の死者 200 人以上 日本政府が緊急支援

| | |
|------------------------------|---|
| ■洪水の死者 200 人以上 日本政府が緊急支援 | 1 |
| ■<港あれこれ②> | 1 |
| ■カンボジアの医療が変わる！ 看護規則、年内に草案 | 2 |
| ■草の根技術協力の SVA が「お話し大会」開催へ | 2 |
| ■<元気です！>シエムリアップの田中さんに「人間力大賞」 | 3 |
| ■<広報班から> | 3 |
| ■カンボジアの新聞から | 4 |
| ■今後の活動のご案内 | 4 |

カンボジアのメコン川流域やトンレサップ周辺地域で洪水が発生、被害が広がっている。同国政府によると、10月17日までで死者は247人にのぼり、全国で約150万人が被災した（写真はプレイベン州の被災者）。被災地ではまだ水位が低下しない場所が多く、衛生状況の悪化から伝染病、デング熱、下痢などの感染症の拡大が懸念されている。また、農作物やインフラへの被害も甚大で、政府は現時点での被害総額を1億ドルと推定している。

これに対し日本政府は8日、約2500万円のテントや毛布等の緊急援助物資の第1便をカンボジア政府に引き渡した。黒木雅文・在カンボジア日本国大使や JICA カンボジアの鈴木康次郎事務所長らが参加した引渡し式では、今回の洪水に対し物資支援を最初に行った日本政府と国民に感謝の意が示された。

農作物の中でもコメの被害は深刻だ。被害面積は約45万ヘクタールに及び、作付されたコメの1割以上が収穫不能となる恐れがある。JICA から水資源気象省に派遣されている平岩昌彦専門家は、「被害の詳細はまだ不明だが、小さな水田しか持たずコメの備蓄も少ない貧しい農家への打撃が大きいだろう」と語る。灌漑施設や道路、橋などインフラへの影響も深刻だ。

一方、農林水産省に派遣されている羽鳥達也専門家によれば JICA が改善・



普及に取り組む淡水養殖では養殖魚が逃げたり、ふ化場が冠水し稚魚を失う被害が出ている。漁業の主流を占める内水面漁業では洪水の影響は少ないが、沿岸漁業では淡水の影響で漁獲量が減少し、消費地市場では解凍養殖エビ、イカなど、限られた商品が流通している状況だ。ただ、長期的に見れば洪水で水産資源が増えるという側面もあるという。

港あれこれ ～シアヌークビル港経済特区から ②

■シアヌークビル港経済特区の完工（12月）を前に、港のこぼれ話を連載しています。シアヌークビル港経済特区については http://www.jica.go.jp/topics/2010/20100616_02.html などをご覧ください。

カンボジア唯一の大水深港であるシアヌークビル港のコンテナ取扱量は、2010年に22万TEU（コンテナ取扱数を表す単位）、2011年は25万TEUを超えるといわれていますが、どのくらいの規模か想像できますでしょうか。日本の港に置き換えると、第8位の清水港（約39万TEU）と第9位の苫小牧港（約20万TEU）の間で、日本のトップ10に入るほどの取扱量があることとなります。同港から東京・横浜・名古屋・大阪に寄港する航路も就航するなど、今後更なる取扱量の拡大が期待されています。



カンボジアの医療が変わる! 看護規則、年内に草案

カンボジアで、看護師の国家試験や資格制度などを定める初めての「看護規則」が起草されている。JICA の「医療技術者育成システム強化プロジェクト」が、カンボジア保健省などとともに取り組むプロジェクトで、年内には全 8 章の規則の草案が完成し、承認されれば来年にも保健省の政令として施行される予定だ。

カンボジアでは現在、看護師だけでなく、医師、助産師、歯科医師、薬剤師などについても資格制度がなく、一定の教育課程を終えれば就業できる。しかし、人命を扱う医療への信頼を高め、国際標準の質を担保するためには、医療専門職の教育の充実、資格制度づくりが急務とされている。

JICA が取り組む看護規則は、これら医療専門職の中で最初に規定されるもので、今後、他の専門職規則の基本となる。その意味で、看護にとどまらず、カンボジア医療全体の基礎となる重要なプロジェクトとして注目されている。同プロジェクトではニュースレター（月刊）をウェブ上で公開している。プロジェクトの進捗状況だけではなく、カンボジアの医療の現状がさまざまな角度からレポートされている。



■ 看護規則の草案を練る TWG での協議の様子

■ プロジェクトの詳細は、次の URL でどうぞ。

<http://www.jica.go.jp/project/cambodia/004/index.html>

「一語一語、地道な作業」 望月経子（JICA 専門家）

全 8 章の看護規則は、総則、ライセンスと登録、国家試験、看護教育、看護サービス、表彰と罰則、移行措置、終則からなる。これらを、保健省のワーキングチームとともに議論し、確認しながら練り上げている。将来的にはそのまま法律に移行できるよう、包括的で充実した内容になっている。起草は、一語一語積み上げていく地道な作業だが、一国の医療の基礎を作り上げるという仕事には、政府間援助ならではのダイナミズムがあり、やりがいを感じる。内戦後の復興期、看護の改善はどうしても後回しにされがちだった。規則の策定は、ライセンスや国家試験などのシステムの整備に加え、「看護とは何か」という基本的な看護の哲学や職業倫理を生み出すきっかけにもなる。実際、規則起草の会議では看護についてさまざまな議論が交わされており、これからどのような看護観がこの国に確立していくのか興味深い。（談）

すべての子どもたちに図書館を 草の根技術協力の SVA が「お話し大会」開催へ

10 月 25 日から 28 日、日本の NGO「シャント国際ボランティア会（SVA）」がプノンペン市内で「お話し大会」を開く。JICA は草の根技術協力で、SVA の北部バンテイミンチエイ州での図書館普及活動を支援している。

「お話し大会」とは、図書館活動の一つである「読み聞かせ」の腕前を競う大会。本を手にする機会がなかった子どもたちが、目を輝かせて物語の世界に引き込まれていく様子は感動的だ。今年は同団体の創設 30 年であるため大規模に行われる。17 州から各 4 人の教師や図書館員らが集まり、「全国一」の読み手が決定する。

カンボジアでは、小学校の就学率は 9 割にまで伸びたが、卒業する子どもはその半分に過ぎない。教育環境も依然厳しく、一人一冊の教科書がある学校はごく一部だ。その中で、SVA は情操教育に欠かせない「本」の大切さを訴え、各地の学校に絵本を贈ったり、図書室を作ったりしている。草の根技術協力事業では、バンテイミンチエイ州内の小学校に図書館を設置し、図書館活動マニュアルを作成。教師を対象とした研修会を開くなどの活動が来年 3 月までの期間で行われる。



■ バンテイミンチエイ州の小学校で、子どもたち自身が絵本の読み聞かせをしている様子

■ 詳しくは以下の URL で。シャント国際ボランティア会

<http://sva.or.jp/>

草の根技術協力については JICA プラザカンボジア

<http://www.jicaplazacambodia.org/>

元気です！

青年版国民栄誉賞、田中さんが「人間力大賞」に

シエムリアップ州在住の田中千草さん（33、写真中央）が日本青年会議所主催の「第25回人間力大賞」の最高賞を受賞した。田中さんは現在、JICAの草の根技術協力事業（地域提案型）「音楽教育を活用した教員の授業実践能力向上プロジェクト」の技術調整員として活動している。

田中さんは北海道芦別市出身。2007年から2年間に、シエムリアップ州のワットポー小学校に青年海外協力隊小学校教員として赴任した。任期が終わり一度帰国したが、教師や生徒たちからの「残って指導を続けてほしい」という要望に応え、個人的に再赴任。また、「アナコット基金」を創設して学校へ通えない子どもたちを支える活動を開始した。田中さん自身も今、6人の里子と共に暮らしている。受賞の対象となったのはこうした個人としての活動で、石狩青年会議所が推薦した。

カンボジアの教育の質はまだ十分とは言えず、特に情操教育はまだ実施さえされていない小学校が多い。田中さんは不足している楽器などの教材を地元北海道より支援を受け、ワットポー小学校で音楽教育や教員のための研修・音楽教育カリキュラム作りなどを手掛けている。

現在は、北海道滝川市が、同事業を通じて教育関係者をシエムリアップ州に派遣、また州の教育関係者を滝川市に招いて研修を実施している。田中さんは「みんなが自分の足で歩いていけるよう、自分たちの未来を自分たちの手で作っていけるよう、お手伝いができたらと思います」と、話している。



“カンボジアの人たちの温かさと子どもたちの輝く笑顔に力ももらい、みんなに助けられることばかりです。”

（田中さん）”

広報班から

広報班では毎年、地元マスコミ関係者を招待し、ODA プレスツアーを開催しています。今年は10月12日から14日にかけて実施されました。事業現場を視察し、受益者へのインタビュー等を通じて、日本のODAに対する理解を深めてもらうことを目的に行われています。後日、取材された内容が各メディアから発信されるため、一般の方へもJICAが行う活動を知ってもらう良い機会になっています。

あわせて、メディアが一堂に会するこの機会を生かし、ローカル情報の収集及び発信において、地元メディアと密な連携を取れるよう関係づくりにも努めています。日本のみならず、広くカンボジアの皆さんにも日本の支援を知ってもらえるよう、様々な情報発信の手段を今後とも模索していきたいと思っております！（広報班 下地美歩子）



■12日に始まったプレスツアーの様子

■掲載記事に関するお問い合わせは広報班までどうぞ。

+855-23-211-673

cm_oso_rep@jica.go.jp

■カンボジアの新聞から、政治、経済、社会などのニュースをダイジェストでお伝えします。

発行責任者：
JICA カンボジア事務所
広報班
6th,7th,8th Floors,
Preah Norodom Blvd.,
Phnom Penh, Cambodia
+855-23-211-673
cm_oso_rep@jica.go.jp
掲載記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。

We're on the Web!
ウェブサイトはこちら
<http://www.jica.go.jp/cambodia/index.html>

カンボジアの新聞から（2011年9月）

■地雷撤去のカンボジア政府軍、スーダンから帰国（9月7日付）

国連平和維持活動としてスーダンで地雷撤去活動をしていたカンボジア政府軍が任務を終えて帰国した。来年はレバノンに派遣する準備を進めているという。

■日通がプノンペンに進出（9月9日付）

日本通運が、9月1日付でプノンペンに駐在員事務所を開設した。東南アジア域内の輸送需要拡大を視野に入れた動き。

■SBI プノンペン証券が合併（9月21日付）

日系のSBI プノンペン証券は、カンボジア最大手財閥であるロイヤルグループ社の証券事業子会社（カンボジア・キャピタル証券）と今年11月をめどに合併すると発表。SBI プノンペン証券の親会社であるSBIホールディングス（本社・東京）は、ロイヤルグループ社と提携し、出資総額最大5000万ドルの投資ファンドも設立する。

■中国最大の銀行がプノンペンに支店（9月22日付）

中国最大の中国工商銀行が11月末までにプノンペンに支店を開く。中国の銀行では、中国銀行に次ぐ2番目の進出となる。

■三菱東京UFJ銀行、プノンペンに事務所（9月28日付）

三菱東京UFJ銀行が、来年3月までにプノンペンに駐在事務所を開設する。情報収集を強化し、日系企業の進出サポートなどのサービスを拡充する。同行は、カンボジアへの日本からの投資について「今年は過去最高に達する」と見込んでいる。

■アンコール遺跡観光客が100万人超に（9月30日付）

アンコール遺跡群への観光客が今年1月から8月までで100万人を超えた。政府によると、この期間の観光客数は約105万人で、前年同期より24%増加した。国別ではベトナム、韓国、中国の順で多かった。

活動のご案内

今後のJICAの活動や国際的な動きをご紹介します。JICAカンボジア事務所では、こうした動向をプレスリリースでもご紹介をしております。ご利用ください。

<予定>

11月28日～12月2日 オタワ条約（対人地雷禁止条約）締約国会議
12月12日～13日 アンコール遺跡保存修復国際調整委員会第18回総会
12月 カンボジア民法適用祝賀式典
12月 シアヌークビル港経済特別区竣工
2012年1月 カンボジア、ASEAN議長国就任
3月 経済センサス確報結果発表